



PHANTASY GIRL 7

「……緊張してる？  
大丈夫！私も初めてだから」

（うわああ！すごいよおお！  
かわいいあそこがはつきり  
見えるよおおおおお！  
お風呂じゃ案外  
見えないんだよね）

「ちょ、ちよつと！  
目が怖いんだけど……！」





「っ痛いっ！  
やっぱりちよつと痛いね」

（血が出る……  
初めて！初めて貰っちゃった！  
嬉しいよおおおおお！）

アキッ

アキッ

っ

あっ♡

あっ♡

ふー

んっ♡

「ま、待つて！  
もっとゆっくり……」





「はあはあ♡  
……でもさ  
初めてが私で  
ほんとなによかったの？」

「まあ女の子同士だし  
ちよつと抵抗はあったけど、  
でもあんたのこと嫌いじゃないし  
むしろ……つて言わせんな！」

「そっかー  
へへへよかったー♡」





「オホオオオオオオオオオオ  
今なら七十分犯罪くらいで  
許してあげるからー!」

「えっ、えっ? ええ!!  
さっきより五百%くらい  
大きくなってるじゃない!!」



「おんな」の「おんな」の「おんな」







「中に出すなんて……  
三十%妊娠しちゃった」

はーっ

はーっ

「えっ!!まだやるの?  
あんたあたしを100%妊娠させる気……?」

スイッ

ドロォ





「……身動きできない女性に  
こういうことするんだ」

（……マザーのために時間稼ぎ  
出来ると思えばいいか）



「……好きにすれば？」

ん

ふーっ

ニャー

ニャー







「……満足した。」

(顔も胸もベトベトだよ……  
それですい「くさやじ」(クサヤジ) (クサヤジ)



「なんの真似だ」これは？」

「……ま、ま、ま、か……  
よせー近づくなー！」





「あーっ  
やあめろー  
私ほ「の「ハ」な「ア」」

あー

んんん

ハア

IP

ン

IP

ン

IP

ン





ポッ

ポッ

(ハアハア... なんなのだよ(この感覚は?)

(これが他人と繋がるという...?)





「まさかこのようなことを  
要求されるとは思いませんでした」

に  
こ

「お気になさらず  
敗者が勝者に従うのは  
当然のこと」

「それにしても私と戦ってなお  
このようにそそり立たせる方が  
いるとは……」

「だからこそ人生はおもしろい  
……ど、いうべきでしょうか？」

♡♡

♡♡



「殿方の弱点をこうもあっさり口に含ませてよいのですか？」

「ふふふ、冗談です  
嘔み千切ったりなど  
致しませんよ」

チュッパ

チュル

ほむっ









「この屈辱感……  
これも人間だからこそ、でしようか」

タマタ

Wow

「次は負けませんよ？」



「あ、あのあのっ！  
やっぱり……無理です」

ピラッ

ハマッ

「うっ!!  
すみませんすみません!  
そうですよね!  
一歩間違えれば大怪我させて  
いたかもしれませんよね!  
ここで許してもらえるなら……」













「言われたとおりにしたわよ  
満足かしら？」

くぽあ♡

（おどろくっ！）  
想像以上に恥ずかしい格好ね  
断るべきだったわ











「こんな大きなビーチボール  
あるんですね！」

「ほらほら！  
乗れますよ！」



「キヤツッ  
だダメですよ！」

「プライベートビーチだからって  
外でこんなこと」





「あっ♡ダメッ♡  
落ちちゃやう  
落ちちゃいます♡」









「海に誘われた時点で  
こうなることは  
予想してたわ」

はら

「ロックしてあるから  
誰もこないとわかっていても  
……やっぱり野外で  
肌を晒すのは緊張するわね」



外だと音が広がって……  
私がいやらしい音が  
聞かれてしまいそうな……♡

はっ♡  
んっ♡

あっ♡  
ああん♡

アッ  
チュ  
キョッ

プリン  
ン  
ン  
ン







(私外でこんなに乱れて...)

はっ

はっ

はっ

はっ



「せつかくの海ですし  
ちよつとがんばつてみました！」

どら♡

「あつ……、大きくなつてますね♡  
しちやい……ます♡」



「あっ♡  
いつもより  
激しいです♡」

はぁ♡

あゝ♡

ズツク

アッ

グッ







「……また大きくなってますね  
もう一回します?♡」

「いつもと違うせい  
私も興奮しちゃいました♡」

はー  
はー

イェ  
イェ

トロー



「はああああ♡  
あったか気持ちいい♡」





「ち、違うし！漏らしてないし！  
あんたなんか10%も怖くないし！」

シクッ

カアアアア



「ああっ！  
そんなとこ触ったら!!  
.....ふわああ」

アッ  
アッ  
アッ

「すみませんすみません！  
かかってないですか？  
うう.....恐縮です」



「こんなもの見て何が愉しいのかしら？」

「変態ね」

ミヤァァァ





あっ♡  
恥ずかしいです...

Ka



「トイレ以外でおしっこするなんて……心臓が破裂しそうよ」

んっ

はぁあ

まじろろ



「あの、あまり見ないでください  
やっぱり恥ずかしいです」

ん

シヨオオオオ





おまん♥

あー♥  
アハ♥

「はあはあ♥  
きもちいいよおおお♥」

ズググ

グゴ

あ♥

ん♥



「ごめん、あたしっ  
も、無理かも……」

「私も、もう！  
一緒に……イ♡」

プシッ♡

はあ♡  
ああ♡  
ああん♡

ビッ  
ビッ  
ビッ  
ビッ



「みんなの八十%気持ちよくないよ」

みんなの八十%気持ちよくないし

ちゅ

はっ

ズッ

ズッ







「だめえ♡  
なんて!!  
おっぱい気持ち良すぎるっ♡」

「頭おかひく  
なつちやうたおお♡」

あーっ

ハア

ニユッ

ニユッ









「あーっ  
やめろー  
私は「のほろろ」な「こ」

あー  
んんん  
んんん  
んんん

んんん

あー

あー



はぁ♡  
あぁ♡  
あぁ♡  
あぁ♡

シューシュー

シュー

シュー

シュー





「そんなに激しくしたら  
だ、だめです!」

ズッ  
ズッ

4  
ズッ  
ズッ

あっ

は!

アッ

あひっ

「おつかいさめさめさめ  
おつかいさめさめさめ」







『これ奥まで♡  
あっあぁ♡』

アッ♡  
ハッ♡  
ズチユ  
パチユ  
アッ♡

ズチユ  
パチユ

















あはれ

んひん  
アッ  
ぽん

アッ  
ぽん  
アッ  
ぽん



んほお

おほお

どろ

ぶー

ぶー





「あうっ!  
どうしよう  
太いの出ちやいそう……」

グワッ

グスッ

グワッ

グッ





(あ、ヤバイ……  
九十九%出口まできてるかも)

イトゥ〜







「ん……………  
聴くなー嗅くなッー」







「まさかここまでの辱めを受けるとは……」

「いいでしょう戒めとして甘んじて受け入れますよ」

ヌキ

グ  
チ  
ユ



「お、お願いします……  
ほんとにつ！  
もう、漏れちゃいそうなんです」



「あああっ!!  
見ないでください  
見ないでください  
見ないでください!!」

「こんな汚い姿を  
お見せしてしまって  
恐縮です……」





「お、お願いします……  
ほんとにつ！  
もう、漏れちゃいそうなんです」



「あああっ!!  
見ないでください!!  
見ないでください!!  
「...」

「こんな汚い姿を  
お見せしてしまって  
恐縮です...」



「……誰だと言わないでよ。」

「貴方と「人な」してゐるなんて  
知られたら……  
みんなと一緒にはられないわ」

イッパツ





「硬くて……  
すぐに出てくれないっ」

んんん

んん

ニ  
ヤ  
ッ

ニ  
ヤ  
ッ



「……誰だと言わないでよ。」

「貴方と「人な」してゐるなんて  
知られたら……  
みんなと一緒にはられないわ」

イヤ  
ムカ  
ムカ

イヤ  
ムカ  
ムカ







「うう……  
恥ずかしいです」

うん  
んん





うう……  
恥ずかしいです

うんっ





(ほあああ……  
かき氷食べ過ぎたかも)

ビュッ  
ビュッ  
ビュッ



「急かさないで……  
そんなに簡単に出るわけないわよ」

（こんな恥ずかしいこと  
早く終わらせたいのに……  
おならしか出ないわ）







「急かさないで……  
そんなに簡単に出るわけないわよ」

「こんな恥ずかしいこと  
早く終わらせたいのに……  
おならしか出ないわ」

グイッ  
グイッ





「浜辺でこんなこと……」

ブッ  
グッ  
グッ

ブッ  
グッ  
グッ





「すごい……  
うんちで繋がっちゃった♡」

「うう、なんでこんな……」

「だめだよ♡  
好きなら汚いものも  
全部愛さなきゃ♡」





「嘘でしょ？  
うんち塗ったでしょが  
あたしの中に入ってる……」

あは

はは

「あっ！わかった  
これ100%夢だ！あはは」

グ  
グ  
ア  
ア





「子宮にこんなこと  
……ありえないわ」

ふー

ふー



いやあ

アキヤ

「...嘘!!  
こんなのでて」

「.....  
気持ち悪い人」

ガキヤ



セーター

「この鼻を突くような匂い……  
随分といい趣味をお持ちのようですね」







「どうです？  
きれいになりましたよ」



「……お望み通り  
一週間洗わないうたわ」

ムクマ♡

「……ちよつと!!  
匂いを嗅がないで!」





(私の口を便器扱いですか  
ふふふ、おもしろい)

「……んぷっ!!」

シ  
ホ  
ホ  
ホ

ゴ  
ゴ  
ゴ